



大きな花を咲かせた東北大会

PTAの皆様、長岡公民館様、関係各位に感謝申し上げます。

11月1日に行われた「第30回東北地区小学校特別活動研究協議会」並びに「第32回山形県小・中学校特別活動研究大会東村山大会」に、県内はもとより東北各県から256名の参加者がありました。3年前から準備委員会が立ち上がり、昨年度からは50名近くの実行委員会が組織され、さらに今年度は100名体制で本大会を支えていただきました。深く感謝申し上げます。また、保護者の皆様には、全員奉仕活動において学校中をきれいにいただいたり、大会当日の運営にもご協力を頂きました。ありがとうございました。会場や物品を提供してくださった長岡公民館をはじめ、駐車場をお借りした各企業等に改めて感謝申し上げます。

お陰様で、長岡小の子ども達の良さやこれまでの研究成果を東北中に発信できたのではないかと考えております。参加された先生方から頂いた多くのご意見を今後の研究実践に生かしていかなくてはとまっているところです。これまでのご支援、ご指導に深く感謝申し上げます。

大会アンケートより

- ◇伝え合おう、わかり合おうとしている。
- ◇正しいと思ったことを素直に表現している。
- ◇一人一人より良いクラスにしようとしている。
- ◇安心して話せる学級づくりが進められている。
- ◇研究の積み上げを感じた。



たくさんのご意見
ありがとうございました。

研究の成果

全国学力・学習状況調査結果より

やり遂げた自信と夢をしっかりと持っている長岡の子

今回は、学校や家庭での学習状況や生活状況についてお知らせします。特に高ポイントだったのが以下の二つの項目でした。まず一つ目は、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか？」という質問項目で、該当する児童の割合が95%という高い数値でした。これは、「為すことによって学ぶ」という特別活動の特性を大切にしながら、研究実践を積み上げてきた成果が現れてきたからだと思います。子ども達の主体性や自信が少しずつ高まってきているのを感じます。

二つ目は、「将来の夢や目標を持っていますか？」という質問項目で、97%の児童が当てはまると答えています。家族との語らいの中で、地域の方々とのふれあい、子ども達同士の関わり合い、様々な学習や体験活動等をおして、長岡の子どもたちの夢やあこがれは、確実に膨らんできています。夢やあこがれは、子ども達が成長していくためのとても大切なエネルギーであると考えています。

この土台を大切に育てながら、「わくわく登校 にこにこ下校」する子ども達の姿を求めて丁寧に実践に当たってまいりたいと思っています。